

# 中学校 技術・家庭(家庭分野) 開隆堂出版 現行本(平成26年度供給本)



## 2 わたしたちと家族・家庭と地域

### 1 家庭のはたらき

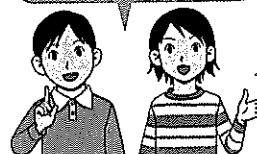
話し合ってみよう

家庭ではどのような活動が行われているだろう。

下図を参考にして、家庭で行われていることをあげてみよう。



小学校では、自分や家族それぞれの生活があり、互いに支え合っていること。家庭での生活は、食べる・着る・住むことなどにかかる仕事によって支えられていることを学習しました。自分でできる家庭の仕事を分担してできるようにもなったね。



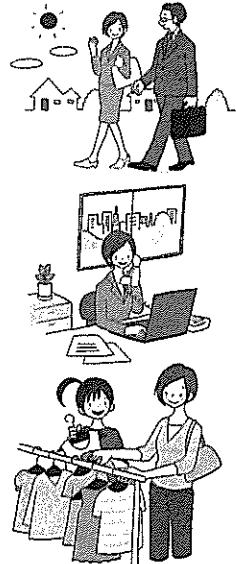
**家庭のはたらき** わたしたちの家庭では、さまざまな活動が行われています。家庭では、食事、入浴、睡眠、遊び、学習などの活動とともに、調理や洗濯、掃除、子どもの世話や教育、病人の世話など、生活を支える仕事も行われています。こうした活動によって、家庭は心の安らぎを得る、日々の活動する力を蓄える、子どもを育てるなどのはたらきを果たすことができます。

また、家庭には、家事をしながら生活文化を伝える、地域の人と交流し、地域の活動を支えるなどのはたらきもあります。

**家庭のはたらきを支えるには** 心の安らぎを得たり、日々の活動力を蓄えたり、子どもを育てたりする家庭のはたらきは、家族が精神的に安らぐ関係であることや、経済生活が安定していることなど、安全で安心感に満ちた環境が整えられることによって果たされます。

家族の安らぐ関係は、共に過ごす時間を楽しんだり、家事を分担したり、それぞれの立場や考え方を尊重しながら、協力して生活をすることでつくることができます。こうした関係は、子どもにとっても大切な関係です。

また、経済生活の安定のためには、収入を得る活動が必要です。経済生活の安定によって、住宅、食料、衣服、水、電気・ガス、燃料など、生活を支える物資を整え、クリーニングやレストランなどのサービスを利用することができます。こうした物資の供給やサービスの多くは、自治体や企業によって行われており、社会全体の安全や安定も家庭のはたらきにとって重要なことです。



1図 ▶ 収入を得て、経済生活を維持する

リンク 24ページ「家庭生活を支える仕事」

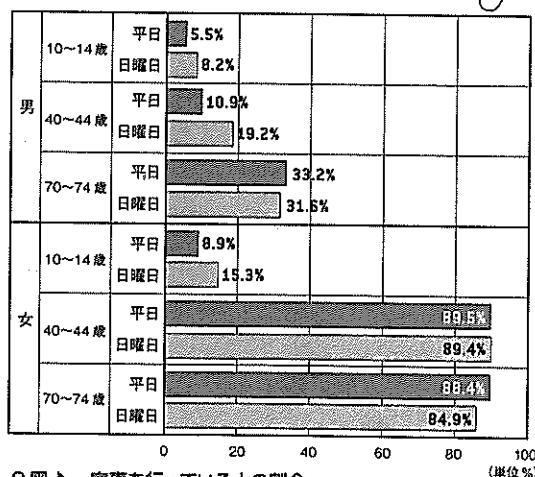


#### にな 家事の扱い手はだれ

生活を支える家庭の仕事の多くは、家族が協力して行っています。しかし、現状では、2図のように家庭の仕事を行っている人は、年齢や性別によるかたよりがあります。家族員それぞれの状況を尊重しながら、家族が話し合い、仕事の量や分担を調整することが必要です。

＼ ? /

●2図を見て、気づいたことを話し合ってみよう。



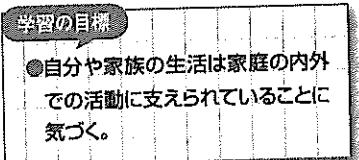
2図 ▶ 家事を行っている人の割合  
(総務省統計局「平成18年社会生活基本調査」)

リンク 25ページ「男女共同参画社会をめざして」



## 2

## 家庭生活を支える仕事



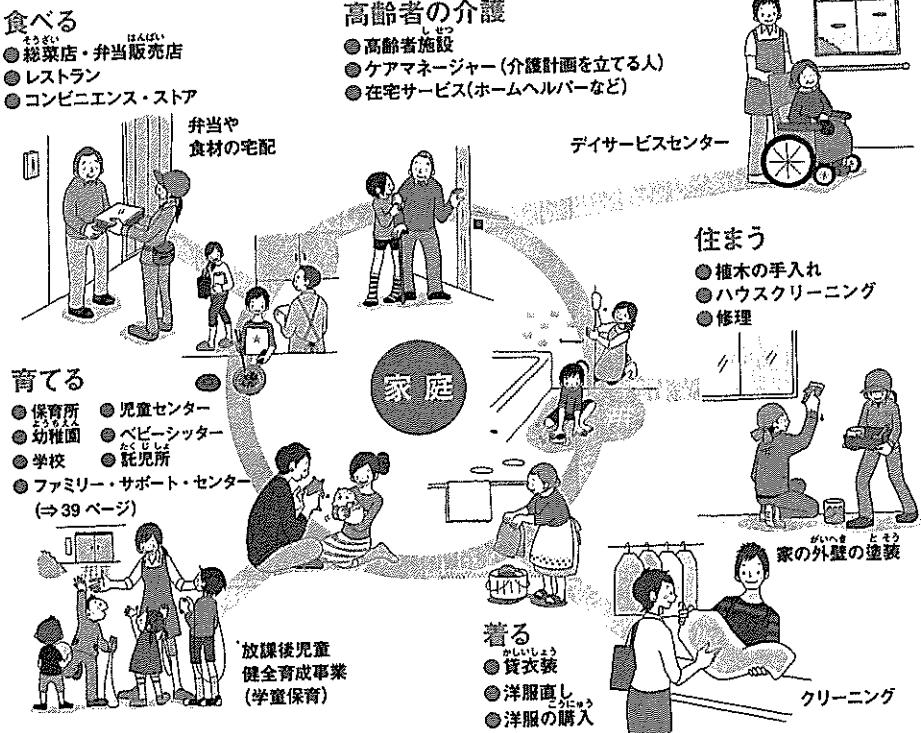
## \考えてみよう/

小学校での学習（「家庭生活と仕事」）を生かして、家庭生活を支える仕事は、どのように行われているか、3図を参考に考えてみよう。

家庭生活は、地域などで行われている活動によっても支えられています。

衣、食、住、子育て、介護など、わたしたちの生活を支える仕事は、家庭の中だけで行われているのではなく、地域、自治体、企業、NPO やボランティア（= 62・63 ページ）など、多くの人や団体によって行われています。

特に子どもや高齢者、障がいのある人がいる家庭や、一人暮らしの人の生活では、地域の人や施設、団体などによって支えられる部分が大きくなる傾向があります。



3図 ▶ 家庭生活を支える仕事の例

【豆知識】 デイサービスセンターは家庭で暮らす高齢者が、機能訓練や介護、食事や入浴サービスを受ける施設です。ホームヘルパーは、身の回りの世話を必要とする人のいる家庭を訪問し介護する人です。



## 男女共同参画社会をめざして

## ウォッチング

男女共同参画社会基本法が、1999年に成立しています。男女共同参画社会とは、「男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かれ合い、性別にかかわりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる」社会の

ことです。基本理念には家庭の外の仕事は男、家庭内の仕事は女がするという社会的な慣行もできるだけ中立なものにする配慮がうたわれています。

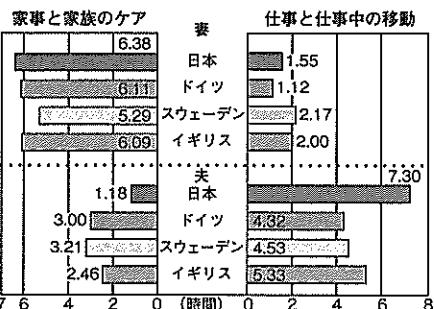
## 4図 ▶ 仕事や家事に費やす時間の国際比較

(週全体、未子が6歳以下(日本は5歳以下)の夫・妻)  
(総務省統計局「平成18年社会生活基本調査」)

注・仕事と仕事中の移動時間は、休日も含めた7日間の平均値である。

6歳以下の子がいる妻は無職や育児休業中の人がいるため、仕事時間の平均値が短くなっていると考えられる。

・国により定義の相違があるため、比較には注意を要する。



## 育児休業法とワーク・ライフ・バランス

育児休業法は、1992年に施行された（1995年に「育児・介護休業法」に改正）、原則、1歳未満の子を養育している労働者が育児のために休業できることを定めた法律です。

子育てと仕事を両立させるためには、育児休業だけでなく、日常の仕事と生活のバランスが重要であるとして、2007年に「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」が定められ、男性の育児休業取得率を引き上げるなどの目標がかけられています。

2010年の育児休業取得率（女性は出産者に対する取得者の割合、男性は妻が出産した者に対する取得者の割合）は、女性が83.7%で、男性が1.38%です。



## こうしてパパは育児休業を取った

二年前の双子の出産のときには、妻が育休を取った。前回に続き、今回も妻が育休を取るというのも選択肢の一つだった。けれど、二年前に育休を取得し、さらに、また一年間育休を取ることは、夫婦間で公平さに欠けるような気がした。

それに、妻にしてみれば、やっと復帰後の仕事が軌道に乗った矢先。育休はもちろん、産休もとらずに一日も早く出勤したいというのが正直な気持ちのようだった。二歳の双子は、長くいっしょに過ごしている妻にベッタリだ。けれど、子育ては本当に母親だけができることなのか。努力によって自分にもできるかどうか、挑戦してみたい気がしたのである。

本当に子育ては自分でも驚くほど発見と感動の連続だった。世の男性は、こんな楽しみを今まで女性に独占させていたのか、と正直思う。願わくは、一人でも多くの男性に、子育ての喜びや楽しみを味わってもらいたい。（山田正人「経産省の山田課長捕佐、ただいま育休中」より作成）

**豆知識** 男女の生物的なちがいではなく、男は外で仕事、女は家の仕事というような社会的・文化的な男女の性差のことをジェンダーといいます。世界では国連を中心にジェンダーを見直す取り組みが行われています。



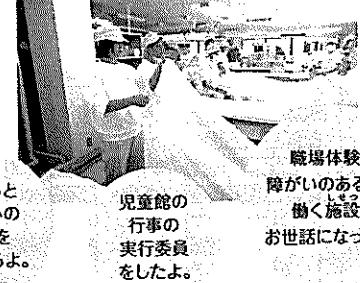
### 3 わたしたちの家庭生活と地域

#### 話し合ってみよう

地域の人と協力して活動したり、助け合ったりしていることを話し合ってみよう。



高齢者の家の雪かきのボランティアをしたよ。



冬になると火の用心の見回りをしてくれるよ。

職場体験で障がいのある人が働く施設でお世話になったよ。

児童館の行事の実行委員をしたよ。



**地域の人とのつながり** 家庭生活は地域の人びとのつながりの中で成り立っています。地域では、日々の生活を快適にするための活動、生活を助け合う活動、交流を深める活動、地域の問題や環境問題に取り組む活動など、さまざまな活動が行われています。地域の活動の多くは町内会・自治会やPTA、さらに、生活協同組合などによって担われています。中学生も地域の活動に参加したり、自分たちが中心になって活動したりすることもあります。こうした活動を通して、世代をこえて生活文化が受け継がれたり、地域の人びとが安心して暮らすことの大切さを認め合う中で、地域への愛着も深まります。<sup>10</sup>



5図 ▶ 地域の人との交流

\*東日本大震災による被害と避難生活、その後の復興の中で、地域の人びとのつながりや地域で受け継がれてきた生活文化の大切さが認められ、それを生かす努力が続けられています。

また、地域には子どもから高齢者まで、さまざまな世代の人が暮らしています。心身に障がいのある人や日本語のわからない外国人なども暮らしています。地域の人びとと交流することは、世代や国籍がちがう人びとの相互理解を深めることにつながります。<sup>15</sup>

リンク 24ページ「家庭生活を支える仕事」  
38ページ「子どもの成長と地域」  
62・63ページ「人が交流し、支え合う地域の活動」

学習の目標	
●家庭生活と地域とのかかわりについて理解する。	

**地域の高齢者とのかかわり** わたしたちは、祭りなどの伝統的な行事をはじめ、地域の運動会やもちつき大会など、地域の高齢者とともにさまざまな活動を行っています。高齢者に伝承遊びや昔の生活のようすを教えてもらったりもしています。地域の自治会やNPO(⇒ 63ページ)の活動も、高齢者の積極的な活動に支えられています。一方、地域には手助けが必要な高齢者もいて、デイサービスセンターに通ったり、ホームヘルパーによる在宅サービスを受けたりする人もいます。近隣の人びとの見

- 10 守りや声かけは高齢者にとっても大切な支えになります。
- 11 **中学生と地域の活動** 地域の活動を支え、つくり出すのはおとなだけの役割ではありません。中学生も、自分たちが中心になって活動したり、自分たちの意見や要求を出しながら、おとなといっしょに地域づくりに参加していくことが求められています。行事や災害時をはじめ、学校が地域の中心となって活動することもあります。



6図 ▶ 地域の高齢者との交流

? / 地域で行われている取り組みを調べ、自分たちにできることを考えてみよう。

#### 参考 地域の防災活動や児童館の運営に参加



災害時の対応訓練に参加する中学生  
東川崎防災ジュニアチーム(神戸市)は阪神淡路大震災を契機に1996年に地元の中学生有志により誕生しました。防災に関する技術の習得や地域バトロールなどを行うほか、災害時に対応できるように地域の人と中学生が訓練をする活動もしています。



児童館の運営に中学生や高校生が参加  
ゆう杉並(東京都杉並区立の児童館)では、計画の段階から現在まで、中高生の意見を取り入れた施設運営がされています。また、中高生自身による自主企画事業が盛んです。

- 家庭にはどのようなはたらきがあるか、また家庭のはたらきはどのように支えられているのかがわかりましたか。
- わたしたちの家庭生活が地域と相互に関連して成り立っていることを理解できましたか。



## 4 子どもの成長と家族の役割

## 学習の目標

- 幼児の生活の特徴を知り、家族の役割について理解する。

## \考えてみよう/

次のことは、いつどのようにしてできるようになるのだろう。

- 一人で食べる
- 一人で衣服を着る
- 一人で寝る



## \ ? /

幼児の睡眠時間について調べてみよう。

- ・必要な睡眠時間は?
- ・実際の睡眠時間は?
- ・時間帯は?
- ・昼寝は?



## 幼児期の食生活

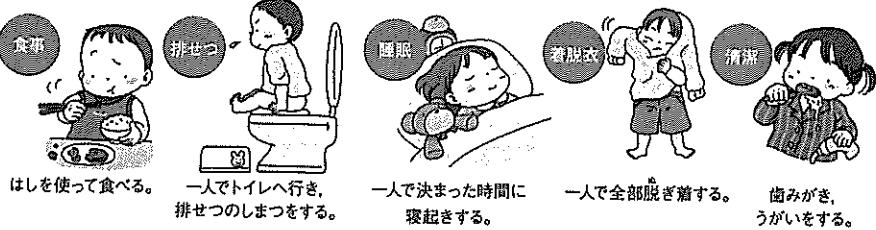
幼児期は、消化機能の発達に合わせて、食事の量や内容も変化していきます。体の成長に合わせて、食事は規則正しく、消化のよいものや栄養のバランスを考えましょう。また、家族や親しい人といっしょに食べることで、おいしさや楽しさが増します。

幼児期の食生活は、健康な体をつくり、その後のよい食習慣を身につける基礎となります。

幼児は胃が小さいので、おやつは食事の一部として重要です。

## 幼児期の食生活の特徴

- 消化機能が未発達のため、1回に食べる量が少ない。
- 食べ慣れていない食品や料理が多い。
- 食欲が周囲の雰囲気や外見に左右されやすい。
- 食事を続けることに集中できない。
- 食生活の基本的習慣が身につく時期である。



12図 ▶ 基本的生活習慣(食事、排せつ、睡眠、着脱衣、清潔)の例



13図 ▶ 社会の一員として身につける社会的生活習慣の例

このほか、家族や地域の人との生活の中で身につけていくものに社会的生活習慣があります(⇒13図)。安全の習慣やあいさつの習慣、順番などの社会生活のルールを守ることなどをいいます。

**5 子どもの成長と家族** 家庭は、子どもが成長していく中心となる場です。家族は、子どもが心身ともに健康に成長していくために、生活のリズムを整え、さまざまな場面の中で、子どもに生活のしかたを教えていきます。

家庭は、子どもにとって生活の場であるだけでなく、心の安らぎを得る場として重要です。家族の中で体験する人間関係は、その後の成長の基盤になります。子どもには、安心して頼れるおとなが必要であり、親やそれに代わる人との基本的な信頼関係をつくることが、何よりも重要です。子どもが育つ家庭はさまざまですが、子どもはみんな精一杯成長していきます。



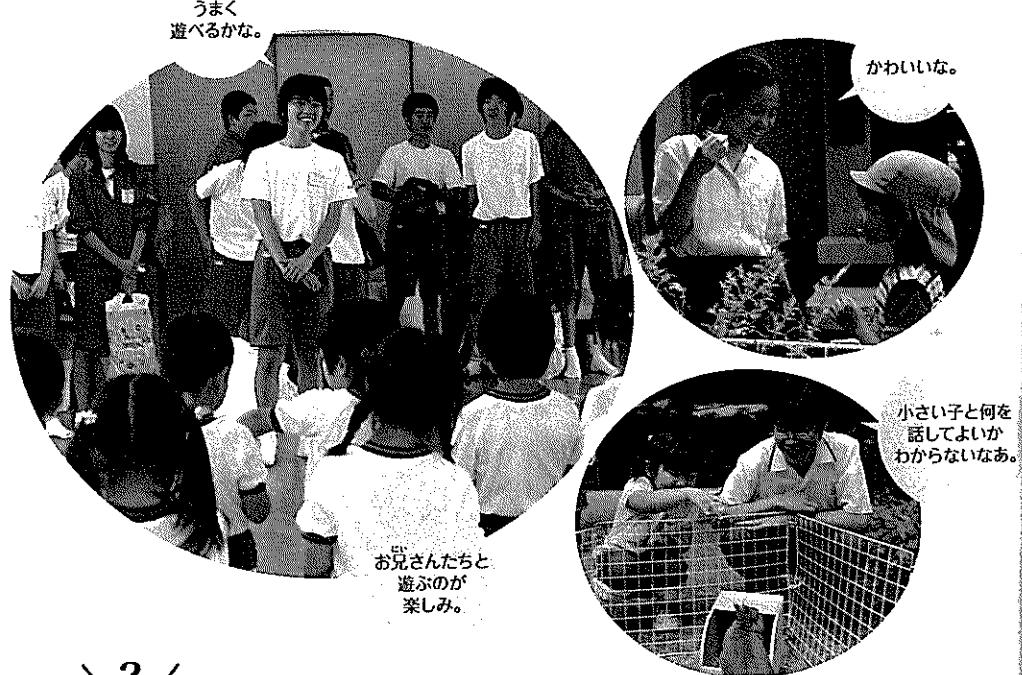
14図 ▶ 子どもと家族



# 4 幼児とのふれ合い

## 1 ふれ合い体験の前に

学習の目標	
● 幼児とのふれ合い体験について 自分の課題をもつ。	
● 幼児と楽しくかかわるための工夫を考える。	



\ ? /

幼児の目線で見てみよう。

ひざを床につけた姿勢で友だちを見ると、どんなふうに見えるだろう。



ここでは、実際に幼児とふれ合うことで、幼児への理解を深めていきましょう。

**ふれ合う前の期待と不安** わたしたちの生活を振り返ると、学校などで同世代の仲間と接することが多く、親や先生以外の年代の人と接することはあまりないかもしれません。幼児もまた同様です。わたしたちも幼児も、初めてかかわるときは期待や不安を抱えています。幼児に特有の行動の意味を理解することで不安を取り除き、かかわり方を工夫できるように学習していきましょう。

**幼児とふれ合う準備をする** ふれ合い体験での自分の課題を決めたら、ふれ合いの場でどんなことができるのか調べたり、訪問先と連絡を取って打ち合わせをしたりしてみましょう。

体験前	体験中	体験後
自分の課題をもつ	幼児とのかかわり方を考える	ふれ合い体験を実施する
ふれ合い体験をふり返る		

- かかわる幼児の年齢
- 訪問先での予定
- 訪問先の特徴を知る
- 人見知りをする子、おしゃべりな子、乱暴な子などいろいろな幼児へのかかわり方
- 幼児を守る立場でのふれ合い方
- スケジュールを確認する
- 自分の言動に注意する
- 保育者の指示に従う
- 安全面に配慮する
- 体調を整えておく

28図 ふれ合い体験の流れ

\考えてみよう/

自分の課題を決めよう。

例1

年齢によって身長はどれくらいがうか調べる。

方法

保育所で、1歳児クラスから5歳児クラスまでの幼児の身長を比べる。

例2

幼児の年齢や個人差などによって好きな遊びがちがうか調べる。

方法

保育所や幼稚園などでどんな遊びをしているか観察してみる。保育者にもインタビューする。

例3

幼児は、いつごろから一人で寝られるようになるのか調べる。

方法

子育て支援センターにいる保護者に、幼児の家庭での生活についてインタビューする。

例4

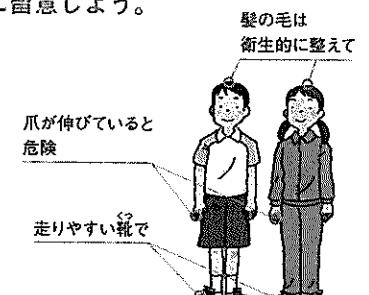
保育者は、幼児のけんかやいざこざにどのように対応しているのか調べる。

方法

保育所や幼稚園などで、保育者のようすを観察する。保育者にもインタビューする。

幼児の発達の特徴から、安全面について次の点に留意しよう。

- 動きやすい服装をする。
- まねされたら困るようなことばづかいや行動はしない。
- 髪や爪など清潔面に注意する。
- 大きな声を出したり、乱暴な動きをしたりしない。
- 健康管理に注意し、ふれ合う前に、健康チェックをしておく。
- その他、保育所や幼稚園などでは、幼児が入ってはいけない場所や遊具などの使い方で気をつけていることがあります。
- 配慮が必要なことについて、保育者にもたずねてみましょう。



29図 幼児とかかわるときの安全面の留意点



## かかわり方の基本

- ◎ 幼児の気持ちを考えながらかかわろう。
- ◎ ゆっくりと、一人ひとりに話しかけよう。
- ◎ 幼児にわかることばで話そう。
- ◎ 幼児のペースで遊ぼう。
- ◎ 幼児が何を伝えたいのか、じっくり耳を傾けよう。



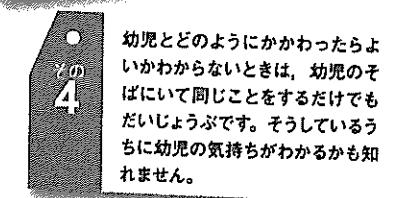
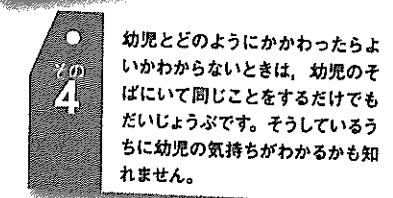
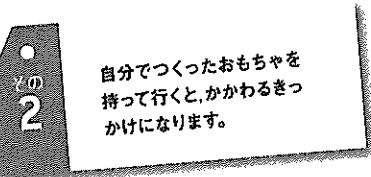
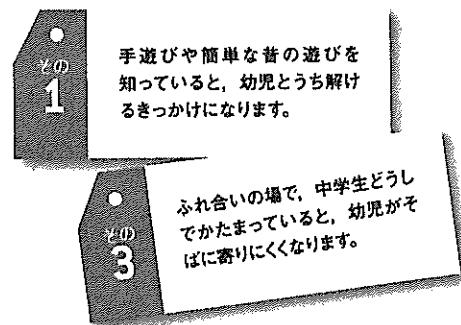
## 保育者からのアドバイス

- ★ 幼児はいろいろなかたちで遊びたい気持ちを表現してきます。その子の気持ちをくみ取って対応してください。
- ★ ある程度は幼児の行為を受け入れることも必要ですが、度が過ぎているようだったらいねいに話して聞かせてください。
- ★ 幼児は、自分の興味・関心があることには集中して取り組む姿を見せます。絵本や紙しばいなどは大好きです。

30 図 幼児とのかかわり方



## 幼児となかよくなるためのヒント



**幼児とのかかわり方を考えよう** 幼児は、わたしたちとかかわるとき、いろいろな反応をします。不安な思いをもついている幼児や、わたしたちとどのようにかかわればよいかわからず、だまってしまう幼児もいるでしょう。幼児にとって、一人で不安を乗り越えたり、かかわり方を工夫するのはとてもむずかしいことです。わたしたちのほうから手をつないだり、やさしく声をかけたり、かかわり方を工夫することで、幼児は安心することができます。

## 2 ふれ合い体験をする

次の方法1～4を参考にして、地域や学校に合う方法で、幼児とのふれ合い体験をしてみよう。

## 方法1 保育所や幼稚園などに行ってみよう

保育所や幼稚園などでは、保育者のもとに幼児が集団で生活しています。幼児は遊びながらさまざまなことを学んでいます。幼児が集団で生活している場に出かけ、幼児に対して何ができるかを考えてみよう。

## 例 1

目線を同じにして遊ぼう  
子どもが見ているものが  
見えてきます



## 例 2

つくったおもちゃで  
遊んだり、絵本の読み聞かせや  
紙しばいをしよう



## 準備

- ① クラス全体か、グループか、1対1か、かかわり方を決めよう。
- ② 幼児の年齢を確認しよう。
- ③ 幼児とすることを事前に友だちどうしでしてみよう。

## 例 3

いっしょに  
昼ご飯を食べよう

## リンク

36ページ  
参考「幼児期の食生活」

お姉さんは  
野菜ちゃんこと  
食べるんだ。



## 学習の目標

- ◎ 幼児とのふれ合い体験の計画を立て、実行する。
- ◎ 幼児とのかかわり方を工夫できる。



## 方法2 幼児を学校に招待しよう

中学校の階段の段差も、いすや机も、幼児にはとても大きく感じられます。どのような点に配慮すればよいか、またどんなかかわり方ができるか考え、幼児を招待しよう。

### 例1 遊びにチャレンジスタンプラリー

- ゲームリスト
- 輪投げ
- とんとんずもう
- お面づくり
- 魚つり



### 方法3 子育て支援センターや児童館に行ってみよう

子育て支援センターや児童館などでは、保護者が幼児といっしょに来て、子育てサークルをつくるなどのさまざまな活動をしています。

#### 例1 子育て支援センターのスタッフにインタビューしよう

- 目的：子育て中の家庭のようすを知る
- どんな人が利用しているのか。
  - 子育て支援センターで保護者がどのように過ごしているのか。
  - 親の悩みで多いのは何か。



### 例2 いっしょにおやつをつくって食べよう



- 安全面・衛生面で気をつける点は何かな。  
子ども料理教室の先生からのアドバイス  
● 子どもの体の大きさをよく理解して、道具や熱源の位置に注意しましょう。

### 例3 幼児と保護者を招いてインタビューしてみよう

- 親子が過ごしやすい場所を用意しよう。
- インタビュー内容を事前に準備しよう。
- 幼児が飽きたときにどうするか、考えておこう。

- インタビュー内容例
- 幼児の年齢
  - 何時に寝て、何時に起きるのか
  - 食べ物の好き嫌い
  - 好きな遊び
  - 子育てで一番大変だと思うこと
  - 子育てで一番楽しいと思うこと

#### リンク

36ページ「参考：幼児期の食生活」

## 方法4 幼児の世界を体験してみよう

幼児についての理解を深めるために、保育所や幼稚園などの集団生活場面の映像を視聴したり、図書館に行って幼児向けの絵本を読んだりして、幼児の世界を調べてみよう。

### 例1 □ 保育所や幼稚園の映像をみよう

集団生活では、仲間とさまざまなやり取りを展開します。そこでどんな体験をしているのか、保育者はどのようにかかわっているのかを注意してみてみよう。

おとなしい子や  
じっとして  
いらっしゃい子  
など、いろいろ  
いたね。

### 例3 □ 自分が好きだった絵本を読んでみよう

自分が好きだった絵本を思い出してみよう。何か特徴があるだろうか。友人と互いに絵本の読み聞かせ合いをして、どんな読み方がよいのか考えてみよう。

寝るとさに  
絵本を読んで  
しまうのが  
好きだった。



「わははははは」とか  
くり返しが出で  
てくる絵本が  
好きだった。



#### 図書館司書の方の話

- ★ 幼児はひざの上で絵本を読んでもらうのが大好きです。安心するのでしょうか。
- ★ 悲いところは悲い声で、楽しいところは楽しい声で読むとわくわくするようです。
- ★ ゆっくり読んであげてください。
- ★ 小さい子は、ページをめくるだけでもうれしいようですよ。

#### リンク

57ページ「ロールプレイングとは」



白砂がある  
秘密の場所が  
あったよ。

### 例2 □ 幼児のころの遊びをしてみよう

幼児のころ夢中になって遊んだりとんでもない遊びや、しぶとり、おにごっこなどをしてみよう。そして、思い出したことを話し合ってみよう。

#### リンク

47ページ「子どもとどろ遊び」

### 例4 □ ロールプレイングなどをして、幼児や保育者になってみよう

遊びやけんかの場面を演じてみて、幼児の発達の特徴とかかわり方について理解を深めよう。

- ロールプレイングのシナリオ  
3歳児クラスでは、たかこたちがおままごとをしています。そこへ、けいこが仲間に入ってほしいとやってきます。

「ダメ」と  
「入りたい」の  
くり返しが  
特徴ですね。

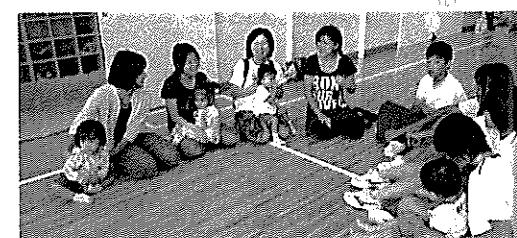
- けいこ：いれて  
たかこ：やだ  
けいこ：やくそくしたじゃん、いれて  
たかこ：ダメ、まんいん（大型積み木で囲いを  
している中で遊んでいるので、狭  
かったようです）

「ダメ」と  
「入りたい」の  
くり返しが  
特徴ですね。

- けいこ：あそびたいの  
たかこ：まんいん、まんいん、だめ、だめ  
けいこ：やだ、はいりたい  
たかこ：まんいんだから、だめ

- このやりとりが続いていました。そこへ先生がやってきて、「満員だったら、ここをひろげればいいんじゃないの」と、積み木を動かしてくれて、けいこは仲間に入ることができました。3歳児では、解決のために、具体的な提案をすることはまだ難しそうです。

- 幼児は遊びの仲間にいるとき、決まった表現を使うときがあります。「いれて」「よせて」「かてて」など地域によって異なります。わたしたち中学生はあまり使わないのではないかでしょうか。





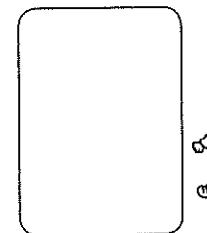
### 3 ふれ合い体験を振り返る



#### 話し合ってみよう

幼児とのふれ合い体験では、楽しかったことや、困ったこともあったでしょう。そのとき、幼児にどんなふうに対応したかを話し合って（□に書いて）みよう。

●幼児にひどいことを言われた。



幼児は  
どんな気持ち  
だったのかな。

●何だかわからないけど、泣いてた…



自分たちに  
何ができるかな。

どのように  
かかわれば  
よいのかな。



#### 感想をまとめよう

経験したことを順を追って書き、感想を加えよう。自分がどのようなことが不安で、どのように解決し、どう感じたかを整理しよう。

**(例)** ①幼児に会う前は、どきどきして話しかけても答えてくれないのでないかと不安でした。でも、②ペアになった幼児の名前を呼ぶと笑いながらきてくれて、手をつないでくれて、③とてもうれしかったです。④前から考えていた質問をすると、元気よく答えてくれて、だんだんと⑤不安だった気持ちが楽しさに変わっていきました。

31図▶ 感想のまとめ方の例



**ふれ合い体験のまとめ方を工夫する** 幼児と実際にふれ合うなどして、幼児とどのようにかかわればよいかを学んできました。理解したことや感想を壁新聞や冊子にまとめてみましょう。そして、学んだことを、これから幼児とかかわるときにも生かしていきましょう。

体験の感想や  
幼児とかかわり方  
をまとめ、下級生に  
紹介し、参考に  
してもらおう。



#### 壁新聞やレポートにまとめよう

##### 書き込む内容の例

- 訪問先の紹介
- 活動内容
- 準備していったこと
- 感想

##### 目次

- 訪問先の紹介
- 年齢ごとの幼児の特徴
- 楽しかったことの例
- 困ったこととその対応
- 注意点

##### 困ったこととその対応

- 一人の子が自分から離れず、他の子どもがくるとじゃましようとしていた。
- 自分のとった行動
- 友だちの意見
- 保育所や幼稚園の先生のアドバイス

#### ふれ合い体験レポート

##### ●訪問のねらい

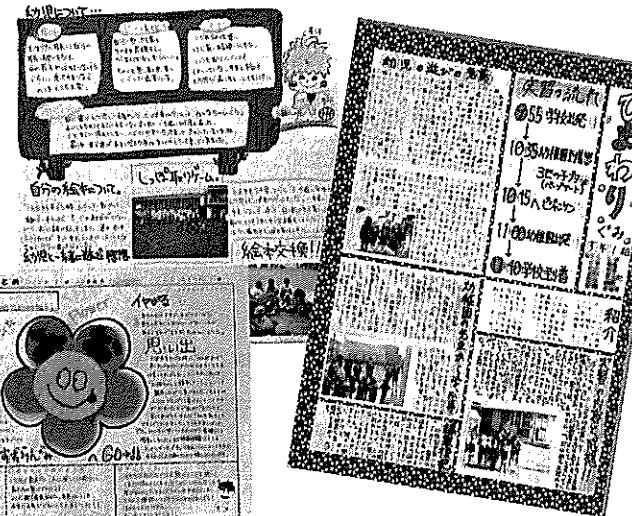
幼児の遊びを調べる。年齢や性別、個性によって取り組む遊びはちがうのだろうか？

##### ●結果と考察

- ・3歳児クラスでは、男女共にままごとをしていた。
- ・5歳児では、協力して積み木で基地をつくっていた。
- ・どのクラスでも、製作が好きな子がいた。

#### 幼児佳園

3年C組 9月29日火曜日 2枚目



32図▶ まとめ方の例

##### ふり返り

- |   |
|---|
| (48~55ページ)  |
| ■ 幼児とのふれ合い体験を通して、幼児への関心を深めることができましたか。                 |
| ■ 幼児と楽しくかかわるための工夫ができましたか。                             |
| ■ 自分の課題をもって、幼児とのふれ合い体験の計画を立て、実行し、幼児への理解を深めることができましたか。 |